

令和7年度 第1回長崎学ネットワーク会議公開学習会

(主催 長崎学ネットワーク会議)



長崎における被爆者運動の形成と展開

ー長崎原爆被災者協議会の1950-60年代を中心にー

講師：木永 勝也 氏 (長崎総合科学大学 長崎平和文化研究所客員研究員)



1956年に長崎市で開催された第2回原水爆禁止世界大会の出迎えの様子(左)と、1962年の長崎原爆被災者協議会第7回総会資料の表紙



国家補償の要求をかけた不十分な被爆者援護施策の改善をもとめ、核兵器の廃絶とを求めてきた被爆者運動が、昨年2024年にノーベル平和賞を受賞するにいたった。占領が終わった1950年代にはいると、1954年のビキニ事件を契機に原水爆禁止を求める平和運動として原水禁運動が興隆した。このなかで「空白の10年」を過ごしていた原爆被害者へも注目が集まったが、当初は同情や救済の対象であった。原水禁運動のなかで、被爆者は自分たちの組織を立ち上げ、運動に取り組み、次第に自律化していくこととなる。長崎での運動の経緯を長崎原爆被災者協議会を中心に考えていきたい。

【講師略歴】

熊本県生まれ。元長崎総合科学大学准教授。現在、同大学長崎平和文化研究所客員研究員、長崎女性史研究会会員、長崎原爆の戦後史をのこす会会員など。専門は日本近現代史。主な著作は、『原爆後の75年：長崎の記憶と記録をたどる』（共著、書肆九十九、2021年）、「長崎と戦争・軍隊」（『証言』第33集、長崎の証言の会、2019年）、「渡辺千恵子氏資料の概要紹介と若干の検討」（『平和文化研究』36-37巻、長崎平和文化研究所、2017年）など。

令和7年5月27日(火)18:00～20:00

会場 長崎歴史文化博物館1階ホール (定員120人、先着順)

入場料無料、要事前申込

電話(長崎市代表・あじさいコール:095-822-8888 ※会場参加分のみ)、
ファックス(長崎市長崎学研究所:095-818-8377 ※チラシ下部の申込事項)、
長崎市役所公式ホームページ(<https://www.city.nagasaki.lg.jp/>)から



【オンラインでも受講可(定員30人)】

参加ご希望の方は、5月25日(日)までにお申込み下さい。(視聴に伴うデータ通信費用は参加者負担。お申込みはホームページが最もスムーズです)。5月26日(月)中に学習会用WEB会議室(Webexを利用)リンク先のアドレスを送信します。

なお、参加は視聴のみで、ご質問やご発言は通信容量の観点からお受けできませんのでご了承下さい。

申込事項	参加場所〔会場・オンライン〕	お名前(フリガナ)	
電話番号		メールアドレス(オンラインの方)	
年代		公開学習会を何で知ったか	